

# 新規ジャッジシステムについて

## ■新規ジャッジシステムのねらい

- 技術選の国際化とプロモーションの一環として、観客から分かりやすく、また合否判定ではなく優劣をつける大会としての評価を行うこと。
- あらゆる側面から“トータルスノーボーディング = 総合的な滑走能力”を評価すること。
- “評価基準に基づく意図ある評価”を行うこと。
- 多様性を認めつつも評価プロセスを統一すること。

## ■新規ジャッジシステムの概要

- 1ジャッジ20点満点の5審5採用 = 100点満点で評価を実施。 ⇒観客への明確な採点揭示
- 5人の審判団を3名／2名のグループに分け、各々違った観点で評価を実施。 ⇒多様性を考慮した幅広い評価
  - ・OVERALL IMPRESSION（演技全体の構成、印象） JUDGE 3名 x 20点 = 60点
  - ・TECHNICAL（操作能力）／INTENSITY（運動能力） JUDGE 2名 x 20点 = 40点

## ■新規ジャッジシステムの詳細

- OVERALL IMPRESSION（演技全体の構成、印象） JUDGE

設定されたコートで他者との技術の表現を競う技術選において、演技の全体像を把握し、その総合的な印象 = OVERALL IMPRESSIONを評価します。

評価の観点としては

- ・コート、斜面、雪質を有効利用（考慮）した**演技構成**
- ・人を魅了する卓越した**技術表現**

を柱に、ライディングによる自己表現の高さを評価します。

無難な滑走よりも、よりチャレンジの見られる滑走に対して正当な評価を与え、それを高い次元で表現されるものに最高評価を出していきます。

## ● TECHNICAL（操作能力）／INTENSITY（運動能力） JUDGE

より高いパフォーマンスのスノーボーディングをするには、スノーボードを自在に動かす**操作能力**と、それによって生まれる雪面からの力を受け止め、有効に利用する**運動能力**が必要です。落下のエネルギーを利用し、巧みにスノーボードを動かす操作能力と身体能力を基礎にした運動能力を持って、雪面抵抗力の“質”をどれだけ高く、また“量”をどれだけ有効に利用し、効果的なパフォーマンスを発揮するかが、TECHNICAL／INTENSITYの評価観点です。

スノーボードの操作能力がスノーボーディングの基底面となり、その基底面が広い＝スノーボードの操作能力の幅が広いと言えます。

そして、運動能力が高いことは操作能力の幅を増やすことにも関与しますが、操作によって生み出される雪面抵抗力の大きさの調整幅も増えるので、生み出される力を効果的に利用することができます。

操作能力が低く運動能力も低い選手は、右の図中の中心に低く細い円柱しか作れず、逆に、操作能力も高く運動能力も高い選手は、高く太い円柱を作り出します。

この円柱の体積の大きさがTECHNICAL／INTENSITY JUDGEの評価の優劣となるような概念です。

スノーボードを巧みに動かしパワーを意図的に逃がす技巧派のライダーや、スノーボードを強く起こし、雪面からのパワーを受け止め利用することに専念するライダーなど、ライダーのスタイルは様々です。

操作のための運動、雪面からの力を受け止めるための運動の両面で評価を行います。

転倒についてのdeduction（減点）は、OVERALL IMPRESSION JUDGEが演技全体における影響でその判定を行うので、TECHNICAL／INTENSITY JUDGEは、チャレンジしてきた内容も踏まえ、操作能力と運動能力により、どれだけ効果的なパフォーマンスが発揮されているかを評価します。

